

ゴーヘッドス 速報

Goaheads

第20号 平成26年8月23日

達脇今期初の猛打賞

一つの行為がゲームを壊す！

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	0	1	0	0	0	0	1	2
S	1	4	0	0	0	0	×	5



8/23(土) 8月負けられない戦いが続く最後の3連戦の一つ、SCL選手会ソルジャー戦を、東綾瀬公園野球場に向き行った。ゲームが、久々の先攻でプレイボールとなった。今日先頭には山田が入ったが、三ゴロで一死となる。そして2番に入ったのは達脇、2-1からのカウントを振り抜くと、今日1本目の安打を左越2ベースとし、先制のチャンスを作った。しかし、後続二打者が倒れ先制のチャンスは逸した。今日マウンド上がったのは、前節好投を見せた光希、今日の打線は小粒だけに、今日の彼のピッチングがゲームを左右すると言っても過言ではないと思う。その先頭への投球、6球を投じたが、空三振に斬る上々の立ち上がり、次打者も三ゴロに斬り、あっさり二死としたが、三番には、中前に運ばれたが4番を遊ゴロに取り、初回を0点とした。翌2回の攻撃、この回先頭の深沢がボールを見極め四球を選択、その後二盗を決め、チャンスを広げた。打席にはニューカマーの真人、3球目打った打球は三遊間への深い打球、これが内野安打に成る間に深沢は三塁へ進塁、そして打席には6年ぶりに山林が入る。1球ボールを見送った2球目をスイングすると、センターへの打球、横飛には充分、これを見た深沢がタッチアップで生還し同点とした。しかし結局、この打球を野手が失策し、山林が塁上に残り、無死一・二塁とチャンスは続いたが、後続三人が倒れ、この回は最少得点の1点のみで終えた。今日のゲームは良いピッチングであった。後を託された達脇も、2回を7人で抑えるピッチングを見せ、更なる得点を与えなかった。打線は、3回に一死二・三塁とチャンスを迎えたが、深沢が外の球を引っかけ三ゴロで三塁走者が生還出来る。この状態が6回まで続き0点行進、そして最終回の攻撃、先頭が倒れ一死となったが、今日二本放っている達脇が打席に、2球目を振り抜くと三遊間を抜き、猛打賞を記録した。後続も2球目を放ったが6-4で二死、DP崩れて走者が入れ替わる。そして打席には先程右線の2ベースを放った4番哲也が打席に、6球目を放つと、打球はライトの頭上を大きく越す3ベースで走者が生還し1点、深沢は今日3個目の四球を選択、更に二盗で二死二・三塁としたが、後続が倒れゲームセットとなった。今日のゲームはやはり2回、相手代表も「気持ちわかるけど、ありゃだめだね」との弁、野手の動きまでも委縮させた行為は重大戦犯と感じる。流れの中では様々な事が起きる。しかし、それが出来なかった事は、最後はその当人が一番感じているはず、だから、周囲はその結果を受け入れ、受け止めなければ、次につながらない。ましてや、周りが投げなくて良かった、というが、受け手の方がその状態が分かっているのだから、受け手がダメと判断した場合は、×を指示する、が、それが出ていないなら、投げなければ次が起きないのも事実。話の延長線で稀に「野球を知らないから」という言葉も耳にするが、後だしジャンケンのように嘸くのなら、その場で知った人が指導すれば良い。それが出来ないなら、その表現はタブー。打者においても今日は問題だった。打順の役割を把握していない。単なる打ちたい症候群になったメンバーの差も敗戦の要因。相手チームは2球以内を叩いた打席が3打席に対し、我がチームは、11打席有り、結果が出ているのは1打席のみ、ベンチから「打って良いよ」「積極的に行け」と声を掛けられると、勘違いしたかのように、必ずその次の球に手を出す、共に言える事は、ベンチは、好球必打を指示しているだけで、期待は、甘いボールを見逃さず、必ず打てよ！という事で、何でもかんでも手を出せという事では全くない。まだまだ負けられない戦いが続くので、今日という日で再度チームとしてリセットし、また勝利を目指してチーム一丸戦おう！こんな内容の試合では、対戦相手、ましてやリーグに対して申し訳なさすぎる内容だから・・・